

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021年 6月

「天国で」 「天の昇化の儀式 (1)」 「キリストを告白する力」 「きゅうりのにんにくレモン漬け」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「天の帰化の儀式 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「キリストを告白する力」

39

わたしたちが信仰の一致に到達するまで

力を得るための食事

「きゅうりのにんにくレモン漬け」

44

レシピ

お話コーナー

「さばきの日 (I)」

46

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2021年5月9日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

互いに尊重するとき、キリストを尊重する

働きの同じ分野が各働き人に与えられるわけではない。その理由のために、あなたがたは共に、主の働き人たちの間に存在すべき自由と信頼のうちに、互いに相談する必要がある。すべての人は自己への信頼を少なくし、勧告における大能者、始めから終わりをご存じのお方にはるかに大きな信頼を持つ必要がある。

あなたがたが互いに尊重するとき、あなたがたがイエス・キリストを尊重するようになる。あなたがたは偏愛を表してはならない。なぜなら、キリストはご自分の選ばれた者たちに偏愛を表されなかったからである。このお方は、「わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」(ヨハネ 15:15)。これこそ、主があなたがたの間で互いに抱くように望んでおられる信頼である。あなたがたが自分たちの過去の経験においてなしてきた以上にこれを行わない限り、神の御霊の言われるとおりに歩むことも働くこともないのである。

神は交わりの快活な調和のうちに一致するよう望んでおられる。主の働き人として、あなたがたが自分の計画を互いに公にしなさい。これらの計画は注意深く、祈りをもって考慮しなければならない。なぜなら、主はこうしない人々を自分自身の考える知恵やすぐれた偉大さのうちにつまずくがままになさるからである。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。これらのことを命じるのは、あなたがたが互いに愛し合うためである」(ヨハネ 15:16, 17)。

ひとりの人が、自分の知恵はどんな間違いもしないと考えてはならない。神は最も偉大な人が、もし義務がすべての人の僕になることを命じるならばそうなるように導くような謙遜さを抱くように願っておられる。

しかし、あなたがたが兄弟として愛し、魂と魂、心と心、命と命で考える一方では、個々に自分の重さ全体を神にあずけなければならない。このお方があなたがたの援助のうちにいてくださる。このお方はあなたがたが光と知恵と指示を求めて互いに頼るとき、喜ばれない。主がわたしたちの知恵となられなければならない。個人個人、わたしたちはこのお方が自分の聖化であり、自分のあがないであられることを知らなければならない。このお方を眺め、このお方に信頼しなければならない。このお方はすべての必要な時におけるわたしたちの近き助けとなってください。(原稿リリース 21 卷 336-337)

第23課 天の帰化の儀式 (I)

バプテスマ

人生における重要なできごとは、しばしば喜ばしい機会として祝います。ある国の国民となることは、多くの人々にとって特別のことであるため、政府は年中、数多くの「帰化の儀式」を開催しています。これらの人々にとって、その儀式は重要なイベントです。なぜなら、それは、わたしたちの社会において、個人が国の市民として受け入れられること表現しているからです。そのような喜ばしい歓迎と受け入れに伴い、その人にはさまざまな新しい権利、特権、また新しい責任がもたらされます。

同様に、クリスチャンのバプテスマもまた、喜ばしくまた重要な儀式です。それは、人が神の霊的な王国へ受け入れられること、また神の組織された教会のメンバーとして受け入れられることを意味しています。もともと、クリスチャンにとってバプテスマは、「帰化の儀式」よりもはるかに大きな重要性をもっています。なぜなら、バプテスマは、神ご自身によって定められた儀式であり、またキリストのご生涯において例証されているからです。

その重要性にもかかわらず、この単純な聖書の教理は、イエスがお与えになった原型から変更されてきました。今日わたしたちは、様々なバプテスマの方法に気づきます。もともと一般的なバプテスマの形態は、水の中で浸されること、水もしくは油をふりかけたり、注いだりすることです。その他の典型的ではない方法や儀式は、歴史上、さまざまな時期に行われてきました。また、候補者が受け入れられる年齢は、新生児から子供、さらに成人まで多岐にわたっています。

何が本当のバプテスマでしょうか。どの神の象徴でも同じように、神のご目的また意図に従って実行される場合、それは一貫性があり、敬神的で、また教育的です。バプテスマの様々な側面を吟味しましょう。そうすれば、わたしたちは、この儀式のための神のご目的や意図を正確に理解することができるようになります。こうすることにより、神の道や思いが人間の道や思いよりも高いこと、そして

神がつねにその民を建て、強め、守るために働いておられることについて、わたしたちの理解力は強められます。

バプテスマとは何か？

「バプテスマ」の語源はギリシャ語の「baptizo (バプティゾ)」すなわち、水に浸すという言葉です。この言葉は、バケツを水によって満たすことや、布を染料に浸すことを描写するために用いられていました。“Baptizo (バプティゾ)”は、「漬ける」、「浸す」、「飛び込む」などを意味します。それはいつもある対象が、水やその他の液体に沈める、また覆われることを表現します。

この言葉を霊的な意味に適用して、使徒パウロは次のように記しました。「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」(ローマ 6:3,4)。

バプテスマは、人が古い罪の生活を捨て、キリストのための新しい生活を誓う公な証です。バプテスマの行為は、古い人の死、水の墓に葬られることを表現しており、そこで古い生活は象徴的に洗い流されます。それから彼らは、新しい命へとよみがえり、再生し、新しい被造物となります。神は自然をとおしてくりかえし、この素晴らしい変化を教えておられます。穀物の古い種(古い生活)が死に、植えられる(埋められる)とき、神の力がその種の中の芽を再生させ、そこから新しい命へと芽吹くのです。

わたしたちは今、パウロがローマ 6 章 3、4 節で上記を説明している意味を理解することができます。バプテスマは、死と埋葬を象徴しているのですから、言葉が意味するとおり、水の下に完全に沈めることによるのみ表すことができます。死んだ人の頭上に少しの土をふりかけるだけでは埋葬することができないのと同様に、少しの水を頭にふりかけたり、注ぐことによって霊的な埋葬をとりおこなうことはできません。聖書にあるイエスや使徒たちの模範は、完全に水に沈めることによってバプテスマを承認しています。

だれがバプテスマを受けられるか？

イエスは救われたい人は皆、聖霊によって、また水の墓から生まれなければならないことを明らかになさいました。「イエスは答えられた、『よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。』」（ヨハネ 3:5）。

霊から生まれるとは、キリストのうちに再生され、新しい心（新しい願い、目的、動機）を受けて、新しい生活へ導かれることを意味しています。キリストは、罪によって汚されたあなたの心を取り去ることを、またキリストの御霊を通してあなたのうちに働くことを申し出ておられます。このお方は、あなたのうちに新しい諸原則を植え付けたいと望んでおられるのです。これがなし遂げられる過程は改心と言われ、第 16 課で説明されました。水から生まれることは、バプテスマを受けること、改心の経験を認めて、水の墓に沈められることを意味しています。こうしてすべての人に、改心がなされたことが証されるのです。バプテスマは、内外両方の表現です。

バプテスマは、「帰化の儀式」の型であるばかりでなく、また「婚姻の儀式」にも類似しています。なぜなら、そこには、キリストに対する献身、またキリストとの契約を含んでいるからです。信者は自分の新しい生涯をキリストに託し、またキリストと結合して、万事においてこのお方のみ旨を果たすことを誓うのです。

こうするためには、信者は新生の経験と共に、神が自分たちに対して主張しておられる権利と、果たすように望んでおられる要求を知的に理解していなければなりません。バプテスマを受けた人々が満たすべき要求の内容を理解する能力を有していなければならない。そのため、ここには、教育的な働きが含まれています。

イエスは、使徒たちに福音の任命を授けるにあたり、次のように言われました。「イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として（教え：欽定訳）、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」なさい（マタイ 28:18,19）。

教育は、バプテスマの前に行われます。イエスは、「彼らにバプテスマを施して、教えなさい」と言われたのではなく、「行って、すべての国民を教え、彼らにバプテスマを施しなさい」と言われたのです。ちょうど結婚しようとしている人が、自分のしようとしていることを理解していなければならないように、信徒はバプテスマで何が起きているのかとその理由を十分に理解できるほど成熟していなければ

なりません。

バプテスマを受ける前には、信じるのがなければなりません。信じること、つまり信頼とは、ある特定の事柄に対する確固たる依存であり信用です。その事柄とは、特定の教えや原則かもしれませんが、あるいはわたしたちが人のうちに見いだすしかるべき特質かもしれません。ある原則や特質の価値を理解し、受け入れることが、あなたの信仰を確立します。

「信じてバプテスマを受ける者は救われる」(マルコ 16:16)。

では、バプテスマを受けようとする人は、何を理解し、また何を信じていなければならないのでしょうか。次を見てみましょう。(続)

天国で

In Heavenly Places



6月

神と共に築く

「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。」
(コリント第一 3:9)

この譬は、人間の品性を象徴しており、それは一つ一つ働きがなされるべきものである。神は日毎にご自分の建物のために働かれ、建造物を完全なものとするために、一打ち一打ち重ねておられる。それは、それがご自分のための聖なる宮となることができるためである。人は、神の力のうちに、自分が神の意図しておられる者となるように、自分の生活を純潔で高尚な行為をもって建てつつ、神と協力しなければならない。(ビュー・アンド・ワルド 1910年4月28日)

人が働き、神が働かれる。人は、不死のための闘いにおいて、すべての筋肉を最大限に使い、すべての機能を働かせるようにと要求されている。しかし、効力を満たしてくださるのは神である。神は、人類のために驚くべき犠牲を払ってくださった。このお方は、人を不法と罪から忠誠と従順へと更生させるために多大な精力を使い果たしてくださった。しかしこのお方は人間の協力なしには、何事もなされない。……わたしたちがサタンの誘惑に対して勝利を維持するのは、絶え間ない努力によるのである。……

だれ一人として、自分自身で厳しく忍耐強い努力をすることなく、向上することはない。すべての者が自分自身で戦いに身を投じなくてはならない。わたしたちは、各々、闘いの問題に対して責任がある。たといノア、ダニエル、ヨブがそこにいても、彼らは自分たちの義によってそのむすこ娘を救うことができない。……

人がキリストの学校で学ぶ者となるためには、しばしば生涯をかけてなされた訓練や教育が捨てられなければならない。わたしたちの心は、神に固くつくものとなるように教育されなければならない。わたしたちは、誘惑に抵抗することができるものとなるような習慣や思想を形成しなければならない。わたしたちは上を見ることを学ばなければならない。神のみ言葉の原則は、天のように高く、永遠にわたる原則であるが、わたしたちは自分たちの日常生活に対するこれらの関連性を理解しなければならない。すべての行動、すべての言葉、すべての思想は、これらの原則と一致していなければならない。

聖霊の尊い恵みは、一瞬にして発達させられるものではない。勇気、堅忍不拔、柔和、信仰、神の救う力により頼むゆるぎない信頼は、幾年という経験によって獲得するものである。聖なる努力と正しいことにしっかりと固守する生活によって、神の子らは自分たちの運命に終止符を打たなければならない。(同上)

6月2日

霊的な思いのための闘い

「肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。」(ローマ 8:6, 7)

生来の思いは、娯楽と自己満足へむかう傾向がある。これをあふれるほど作り出そうというのがサタンの方針である。彼は、人の思いを世の娯楽への渴望でいっぱいにしてしようとしている。それは、彼らが、わたしの魂はどうなっているか、と自問する時間を持たないようにするためである。娯楽への愛着は、伝染する。これに感染するままにしてしまうと思いは、次々と先を急いで、常に何らかの娯楽を求めるのである。神の律法への服従は、この傾向を阻止し、不信心に対して防壁を築く。……

栄光の富を享受する能力は、わたしたちがこれらの富を持ちたいと望む願望に比例して発達する。この生涯において神と天の事柄に対する正しい認識がないとすれば、いかにしてそれは発達し得るであろう。もし、世の主張とわずらいがわたしたちのすべての時間と注意を奪ってしまうならば、わたしたちの霊的な力は弱められ、それを働かせることがないために死滅してしまう。地上の事柄にすっかり明け渡されてしまった思いには、天からの光が入るためのすべての入り口がふさがれている。神の変化させる恵みは思いにも品性にも感じることができない。(ビュー・アンド・ハラルド 1901年 5月 28日)

わたしたちは、終わりの時代の危険のただ中に生きている。そして、わたしたちは、サタンが自分の誘惑をもってわたしたちに近づくことのできるすべての道を守るべきである。……真理に対する単なる同意は、決して魂を死から救うことはない。わたしたちは、真理を通して聖化されなくてはならない。品性のすべての欠点は克服されなければならない。さもなければ、それがわたしたちを征服し、悪のために働く支配的な力となってしまう。一刻の猶予もゆるさず、ただちに心の園からすべての致命的な雑草を引き抜きはじめなさい。そして、キリストの恵みを通して、永遠の命への実を实らせるような植物以外のものを繁茂させてはならない。

あなたの品性において、キリストのご品性に調和するものは何でも培いなさい。すべて真実なこと、尊ぶべきこと、正しいこと、純真なこと、愛すべきこと、ほまれあることこれらを心の中で大事にしなさい。しかし、わたしたちの贖い主に似ていないことは何であつても捨てなさい。……永遠の命を獲得するすべての魂は、「聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され」たキリストのようにならなければならない。(同上 1884年 6月 3日)

あなたの思想は 調査に耐えるだろうか

「主はすべての心を探り、すべての思いを悟られるからである。あなたがもし彼を求めらば会うことができる。しかしあなたがもしかれを捨てるならば彼は長くあなたを捨てられるであろう。」(歴代志上 28:9)

あなたは、自分の思想、自分の言葉、自分の時間、そして自分の行動について神に対して弁明しなくてはならない。……

あなたは、この地上で神との交わりを楽しまない限り決して天国に入ることはできない。なぜなら、ここが、わたしたちが天にふさわしいものとなるための場所だからである。神が、魂の最高の敬神、愛、畏敬の対象となるべきである。この世は、わたしたちがさらに上級に進むための準備を受けられる学校に過ぎない。この世において自分たちの思想に神をとどめることを愛さない者たち、この生涯において神に服するのはうんざりだと考える者たちは、決して将来の生涯でキリストと共に楽しみを持つことはない。彼らが自己満悦においてここで選び愛するものこそが、彼らの好みを教育しているものであり、したがって、天の規律が抑制となるのである。あなたの魂が神の規律の下にあるようにしなさい。……

人間を創造され、その贖いのためにあれほどの代価を支払われたお方は、人間が低いこの世の標準、軽薄で安っぽい生涯を選ぶとき大いに辱められる。……自分たちをこの地上と将来の生涯における救いにいたる知恵のある者とする知識に背を向けながら満足している者、地上の軽薄な事柄を受け入れる者は、イエス・キリストが彼らに、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」と招いておられるときに、自分たちの魂に苦い水を飲ませているのである(ヨハネ 7:37)。(原稿 13 卷 1897 年)

あなたの魂を神のみ言葉に包含されている栄光に満ちた真理を瞑想することに没頭させなさい。そうすれば、あなたは、常に自分が持っていない何かに対して渴望するようなことはなくなる。あなたは、安っぽく空しい思想を忌み嫌うようになる。あなたは、福音のなかでいつもあなたの前に置かれている徳と聖潔の高尚な標準に合う者になろうと絶えず努力するようになる。あなたは、神聖な生活においてより高いことを達成しようと努めるようになる。神のみ言葉という媒介を通して神と言葉を交わしなさい。(同上)

このお方があなたの前においでくださった気高い理想を熟考することによって、あなたは、純潔で聖なる雰囲気、神のみ前にまでひき上げられる。あなたがここにとどまる時、あなたに接触するすべての人たちを照らす光があなたから照り輝く。(手紙 10, 1894 年)

6月4日

心を守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

なぜ、靈的に失敗する者、均整の取れていない品性を持った者……が、こんなに多くいるのであろうか。それは、彼らが、真理を知っていながら、今イエスにあるがままの真理を実行し始めなかったからである。彼らは、イエスに自分たちの品性の欠陥のある特質を取り除かせなかった。……改心が義なる者は、自分の生活におけるすべての行いに義なる原則を持ち込む。その人だけが、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる信仰にしっかりと根ざしているのである。

毎日、わたしは品性において変わっていない、ただ論理においてだけである、と証しているものが多くある。……信仰によって、すべての者が勝利者の冠を獲得することができる。しかし、多くの者は、自分たち自身の不完全な性質と組討ちの戦いに入ろうとしない。彼らは、神に対して自らを不快な者としている特質をそのままとどめている。日毎に彼らは、神の聖なる律法の原則を犯している。もし、すべての者が、キリストのくびきを取ってそれを負い、偉大な教師からその柔和と心のへりくだりを学ばなければならないという単純な教訓を学びさえするなら、彼らは、神を最高に愛し、自分の隣人を自分たち自身のように愛するという自分たちの契約をより良く果たすことができるのだが。……彼らは一番の初歩から始めなければならない。キリストは抑制と服従というわたしのくびきをあなたの身に負い、わたしに学びなさい、と仰せになる。……そのとき心は、キリストの創造の力を通して、神に対して正しいものにされる。神の性質にあずかる者となり、彼らは変えられる。……

回復させ、変化させる働きが心のうちから始められなければならない。心からは命の泉が流れるのである。ああ、それであれば、なぜ、口先だけの言葉で十分だと思えることができるであろう。……わたしはあなたに、キリストのためにお願ひする。途中で止まってはならない。前進、さらに前進しなさい。クリスチャンの達成の完全に向かって進みなさい。何一つ不確かなままにしておいてはならない。最高に注意して自らを見張りなさい。あなたには、品性においてキリストを誤って伝えてはならないという責任があることを覚えていなさい。わたしたちの欠点によって、他人に同じ罪を犯すよう導くことがないようにしようではないか。……

より進んだ光をもっていると主張する者は、その光の感化力を自分たちの言葉と、自分たちの振る舞いと、自分たちの声と、自分たちの行動にいつでも、どこでも、あらわさなければならない。(手紙 178, 1899 年)

すべての思想におられるキリスト

「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください。」(詩篇 139:23, 24)

考えと想像力に対して抑制を働かせるのは義務であることに気がついている人はほとんどいない。律せられていない思いを益のある主題に定着させ続けるのは困難なことである。しかし、もし思想が適切に用いられるのでなければ、宗教は魂のうちに繁茂することができない。思いは、神聖で永遠の事柄で占められなければならない。さもなければ、思いは軽薄で浅はかな思想を大事に抱くようになる。知的、また道徳的能力の両方とも律せられなければならない。そして、それらは働かせることによって向上するのである。

この問題を正しく理解するためには、わたしたちは自分たちの心は生来、墮落しているということ、そして、わたしたちは自力で正しい道を追及することはできないということを知覚していなければならない。わたしたちが勝利を獲得できるのは、ただ、わたしたちの側での最高に熱心な努力と結び合わされた神の恵みによるのである。心と同様に知性も神の奉仕にささげられなければならない。このお方には、わたしたちにあるこれらすべてのことに対して権利がある。(両親、教師、生徒への勧告 544)

人類が低く沈み込んでしまったありのままを、あるいは、実際に人類が徹底的に悪く、絶望的に神に敵対しているありのままを信じている人はほとんどいない。……思いが神の霊の直接的な感化の下にないなら、サタンは、それを自分の望むとおりに形成することができる。彼が支配するあらゆる理性の力を彼は、肉的なものとする。彼は、思考において、見解において、優先順位において、好き嫌いにおいて、物事やなすべきことの選択において、真っ向から神に反対する。神が愛されたり、是認なさったりすることに対する興味がなく、かえって、このお方が忌み嫌われる物事に喜びがある。……

もし、キリストが心の中に住まわれるのであれば、このお方がわたしたちのすべての思想におられるようになる。わたしたちのもっとも深い思想がこのお方のこと、このお方の愛、このお方の純潔となる。このお方は、思いのすべての部屋を満たしてください。わたしたちの愛情は、イエスに集中する。わたしたちのすべての希望、期待は、このお方に結びつく。わたしたちが、このお方の再臨を待ち望み、愛しつつ、今生きている生涯を神の御子を信じる信仰によって生きることが、魂の最高の喜びとなる。このお方がわたしたちの喜びの冠となられる。(手紙 8, 1891年)

思いを霊的に働かせることを喜ぶように訓練してきた人々は、天に移されることができ人であり、天の純潔と超越的な栄光に圧倒されない者である。(教会への証 2 巻 267)

6月6日

正しく考えるとき安全

「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ」(コリント第二 10:5)

考えでさえ、神のご意志に服従し、感情は理性と宗教の支配下に入れなければならない。わたしたちの想像力は、何の抑制や規律の努力もなく、暴走して行くがままにされるために与えられているのではない。もし、考えが悪ければ、感情も悪いものとなる。そして、考えと感情とは、一緒になって道徳的品性を形作る。(ビュー・アンド・ヘルド 1885年4月21日)

正しい考えの及ぼす力は、オフルの黄金のくさびよりも尊い。なぜなら……わたしたちは、自分たちの考えを正しく制するというに高い価値をおく必要がある。なぜなら、そのような抑制は主人のために調和をもって働くようにと思いと魂を備えさせるからである。この地上におけるわたしたちの平安と幸福のために、わたしたちの考えがキリストに集中することが必要である。人は考えるがごとくその人となるのである。わたしたちが道徳的純潔に向上するのは、正しく考え、正しく行動することにかかっている。……邪悪な考えは、魂を破壊する。神の改心させる力は、心を変えて、考えを精練し純潔にする。思想をキリストに集中させ続けるために断固とした努力がなされない限り、恵みは生活において表れることができない。思いは、霊的な戦いに入らなければならない。すべての思いをとりこにして キリストに服従させなければならない。すべての習慣は、神の支配下に置かれなければならない。

わたしたちは純潔な考えの高尚にする力と、邪悪な考えの損なう感化力を絶えず感知する必要がある。わたしたちの思想を聖なる事物におくようにしよう。それらが純潔で、真実であるようにしよう。なぜなら、どの魂にとっても正しく考えることが唯一の安全だからである。わたしたちは、神がわたしたちの思想を統御し、培うためのあらゆる手段をわたしたちの手の届くところにおいてくださった。わたしたちは、自分たちの思いが神の思いに調和するようにさせなければならない。このお方の真理は、わたしたちを、体も魂も霊も聖化する。そして、わたしたちは、誘惑を超越することができるようになる。(手紙 123, 1904年)

聖霊と協力する思想の抑制は、言葉の抑制をもたらす。これこそ、真の知恵であり、思いの静けさと、喜びと平安を保証する。神の恵みの富を熟考することに喜びがあるのである。(手紙 10, 1894年)

神の思いと調和する

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるのであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。」(ヤコブ4:8)

神の御使たちはその思想と献身した奉仕において神に近づくすべての人たちに引き寄せられる。……二心の者であるということは大きな不幸である。「二心の者[は]…、そのすべての行動に安定がない」(ヤコブ1:8)。……主がわたしたちに思いを与えてくださった目的にかなってそれをういよう。野心、貪欲、変わり者にならないようにと世の流行、習慣、慣習を追う熱狂ぶりは、クリスチャンが追求すべき道と世の慣習との間を区別する境界線をまもなく消し去ってしまう。

娯楽に対する愛着をいだいたり、ふけったりしてはならない。神への奉仕のために造られた人類が、主の関係しておられない計画に没頭する時間をみつけると、彼は、次のように尋ねてみるが良い。わたしは、どのような目的を視野に入れているのであろうか。わたしが本当に喜んでいるのは誰の奉仕であらうか。功績を求める熱心な努力は、結局どういふ結果に終わるのであろうか。(原稿21巻1898年)

主の財産を預かる執事として、わたしたちは、魂の宮をあらゆるごみや世の汚れからきれいに守っていなければならない。……わたしたちが神の思いに調和するように、わたしたちのすべてのタラントが用いられ、一つ一つの思想が協力し、すべての力を結集しなければならない。わたしたちは、聖霊の恵みで身を飾り、すべて正しいこと、純潔なこと、向上させること、高尚なことを自分のものとし、卓越さを写し取り、天の家族の完全さを具体化し、自分たちを天の宮廷の王家にふさわしいものとする教育を得なければならない。

わたしたちには、聖霊の靈感の下で訓練されるという特権がある。すべてすぐれた特質が、わたしたちの道徳的な力を強めるべきである。それは、それらに何の曇りもかげりもないためである。わたしたちは、人類という織物に自分たちの糸を織り込んでいる。その布には、自己榮譽という糸を一本も織り込んではいならない。全天は、わたしたちが、すべての障害を克服できるように助けを与えている。……わたしたちはしっかりとした構造、霊的で、天来のもので、完全な品性を築き上げるべきである。神はわたしたちが現世と永遠のために働くようにと命じておられる。それは、わたしたちが神のみかたちに従って成長できるためである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1905年11月23日)

6月8日

思想においてキリストに似る

「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。」(ピリピ 2:5)

神は、キリストの名を担う者たちが、このお方を思想、言葉、そして行いにおいて代表することを期待しておられる。彼らの思想は純潔で、彼らの言葉と行いは高貴で向上させるようなものであって、自分たちの周りにいる人々を救い主に近づけるようなものでなければならない。

真のクリスチャンの生活には、自己が一切ない。自己は死んでいる。キリストがこの地上で送られた生涯には、利己的なものがなかった。わたしたちの性質を取られ、このお方は、完全に他人への奉仕のために献身した生涯を送られた。

「それだから、……あなたがたも完全な者となりなさい」とは、わたしたちに対する神のみ言葉である(マタイ 5:48)。そして、わたしたちがこの言葉に従うことができるために、神は、ご自分の愛するひとり子がわたしたちのために完全な生涯を送るためにこの地上に遣わされた。わたしたちの前には、このお方の模範がある。そして、このお方がこの生涯を送られた力はわたしたちの意のままである。思想において、言葉において、行為において、イエスは罪のないお方であった。このお方のなされるすべてのことが完全さで特徴づけられていた。このお方はご自分が歩まれた道をわたしたちに指し示し、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と仰せになる(マタイ 16:24)。

わたしたちは、だれであっても人間を模倣すべきでない。わたしたちの標準となるに足るほど賢い者はだれ一人としていない。わたしたちは、人なるキリスト、イエスをながめるべきである。このお方は義と聖潔の完全さにおいて完璧であられる。このお方は、わたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられる。このお方は、模範となる人(Pattern パターン)であられる。このお方の経験がわたしたちの得るべき経験の基準である。このお方のご品性がわたしたちのモデルである。であるから、わたしたちはこの世での生活上の困惑と困難を思いから振り払い、このお方に思いを定着させようではないか。それは、ながめることによって、このお方に似た者となえられるためである。……

わたしたちは、キリスト・イエスに熱烈な関心を持つべきである。なぜなら、このお方はわたしたちの救い主であられるからである。このお方は、あらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑にあわれるためにこの世に来られた。それは、この罪の世において、人間が神の是認なされる生涯を送ることができるということを宇宙に対して実証なされるためであった。……キリストがわたしたちの届くところにおいてくださった祝福を求めようではないか。それはわたしたちが、ますます、さらにこのお方の恵みを受けることができるようになるためであり、またわたしたちが、生きて活動し、成長する信仰、すなわち「見よ、……いつもあなたがたと共にいるのである」という約束を信じる信仰で満たされるためである(マタイ 28:20)。(ビュー・アット・ヘヴル 1905年3月9日)

異なる者となることを 恐れない

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。」(ヨハネ第一 2:15)

真理を知っており、この時代になされるべき大いなる働きを理解していると主張する者たちは、神に魂、体、そして霊を献身しなければならない。心において、衣服において言葉において、そして、あらゆる面において、彼らは世の流行と習慣から分離しなければならない。彼らは、特別で聖なる民とならなければならない。彼らを特別にするのは、彼らの衣服ではない。しかし、彼らが特別で聖なる民であるからこそ、彼らは世に似たしるしを帯びることはできないのである。

民として、わたしたちは主の道を備えなければならない。神がわたしたちに賜った能力をほんのわずかといえど余すことなく、この神の備えの大いなる日に民が立つことができるように、神の方法に従って、このお方の霊的な型に従って彼らを備えさせるために用いなければならない。……自分たちが天国に向かっていている者たちの多くは、世に目をくらまされている。宗教の教育と宗教の規律が何によって成り立っているかということについての彼らの考えはぼんやりとしており、ただ可能性しか考えていない。知的な希望は何もなく、まさにイエスがすべきでないとお教えになったことをなし、食べ、飲み、着て、自らをさまざまな方法で世にしばりつけて危険を冒している者が多い。彼らは、霊性において成長するためには重要不可欠である重大な教訓をまだ学んでいない。まだ、世から出て分離していない。

心は二心となっており、肉の思いは、あまりにもたくさんの方の方法において世との一致と相似を切望しているため、世から区別するしるしはほとんど見分けることができない。金銭、神の金銭が世の習慣に従った装いをするために用いられている。宗教的な経験は、世俗に毒され、弟子である証拠—すなわち自己を否定し、十字架をになうことにおいてキリストに似ていること—は、世にも天の世界にも見分けがつかない。(原稿 8, 1894 年)

決着をつけなければならない問題とは、「わたしたちは、神の子となるために、自ら世から分離することを望んでいるであろうか」ということである。これは、一瞬、一日の働きではない。……これは、生涯の働きである。神への愛は、生きた原則とならなければならない。すべての行為と言葉と思想の根底とならなければならない。(レビュー・アソド・ハルト 1888 年 10 月 23 日)

6月10日

世と何の提携もない

「世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。」(ヤコブ4:4)

キリストと世とは何の提携も結んでいない。使徒は「世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか」と言っている。……世に迎合することは、決して世をキリストに改心させる手段とはならない。クリスチャンは、もし教会が未信者に対する善への感化力を力あるものとしたのであれば、あまずことなく神に献身しなければならない。キリストからほんのわずかにそれれることも、敵に寄与する感化力、力、効果は非常に大きい。(ビュー・アソド・ヘラルド 1892年8月23日)

クリスチャンとは、聖書に記されている通り、その目的と習慣において世から分離し、キリストに一致している者である。それは、キリストだけが与えることのできる平安を持っており、主の喜びが自分の力であって、また自分の喜びが満ち満ちていることを見出す者である。クリスチャンは、世が警告もなく滅びるままにしたり、失われた者が更生するために何の努力もしないようなことはしない。……真にキリストを愛する者たちは、自分たちが善を行い、キリストの働きを模倣する手段を講じることができるようあらゆる機会を見張っている。彼らは、世と同盟を組むために誘惑に屈したりしない。彼らは、密命を結んで自らを彼らと親密に結びついたりしない。そして、キリストの側に完全についていない者たちは、大いに世の格言や習慣に支配されるのである。……

サタンは、この世の財産に富んでおり、欺くための狡猾さに満ちている。そして、彼の最も効果的な代理人は自分たちのキリストに似ていない品性によって神の力を否定しているが、信心の形式を取るよう彼が導くことのできる者たちである。神の子らは、あらゆる環境において、正しいことのために固く立たなければならない。彼らは、世の思いと精神を持っている者たちによって欺かれてはならない。……

神には、キリストが不可能だと宣言されたこと、すなわち、神と富とに同時に仕えてみようとはしない忠実な証人たちがいる。彼らは、世の道徳的闇と、死のとばりのように民を覆う深い闇のただ中に燃えて輝く光である。(ビュー・アソド・ヘラルド 1894年12月4日)

地上の事柄から切り離される

「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。」
(エペソ 5:11)

多くの自称クリスチャンたちは、地を這い、その巻きひげが伸びた先にある根やごみからみつくぶどうの木によってよく表されている。このような者たちすべてに、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」とのメッセージが届いている(コリント第二 6:17, 18)。

もし、わたしたちが神に祝福され、神から誉れを受けたいのであれば、満たさなければならない条件がある。わたしたちは、世から分離し、わたしたちの愛情を神から引き離すようなものに触れることを拒否しなければならない。神は、ご自分の民に対して最初にして最高のご要求を持っておられる。あなたの愛情がこのお方と、天の事柄から動かないようにしなさい。あなたの巻きひげは、すべて地上のことから切り離されなければならない。あなたは、汚れたものに触らないように訓戒を受けている。なぜなら、これに触れることによって、あなた自身も汚れたものとなるからである。あなたが、これらの墮落した者たちに結合しながら、なお純潔を保つことは不可能である。「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか」(同 14, 15 節)。神とキリストと天の万軍は、もし人が墮落した者と結合するなら、彼も墮落するようになることを知るようにと望んでおられる。……

わたしたちのすべての行動は、わたしたちの宗教経験によって影響される。もしわたしたちの経験が神に基礎を置いているならば、もしわたしたちが日毎に来るべき世の力を味わっているならば、そして聖霊との交わりを持っているならば、もし毎日わたしたちがより高尚な生涯をより固くつかんでいるならば、聖にしてとこしえの原則がわたしたちのうちに働くようになり、わたしたちにとって純潔と聖潔と世からの分離を求めることは、栄光の御使たちが自分たちに与えられた愛の使命を実行するのと同様に自然なこととなる。(レビュー・アンド・ヘルド 1900 年 1 月 2 日)

わたしたちの神への献身は、生活に織り込まれ、自己否定と自己犠牲へと導く生きた原則とならなければならない。それは、わたしたちのあらゆる思想の根底となり、すべての行動の泉とならなければならない。これによって、わたしたちは世を超越し、その汚染する感化力からわたしたちを分離されるのである。(同上)

6月12日

解き放される

「兵役に服している者は、日常生活の事に煩わされてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと努める。」(テモテ第二 2:4)

主イエスは、ご自分が買って所有しておられる者たちが、自分たちを誘惑にさらすであろう一切のものから自らを解き放すよう望んでおられる。わたしたちは、創造によって主のものである。わたしたちは、贖いによってこのお方のものである。わたしたちのあらゆる知覚力は、わたしたちが、神との正しい関係に身をおくことができるように、鋭く、鋭敏に保たなければならない。

わたしたちが選ぶ仲間は、わたしたちにとって、助けともなれば妨げともなる。わたしたちは、自らの身を悪天使たちがその誘惑とわなをもつてわたしたちを取り囲むことができるような場所におくことによって危険を冒すようなことは何であつてもしてはならない。サタンは、……自分の魅惑的な誘惑を魂の前におく。彼は、光の天使として現れ、一見善と思われる誘惑の衣を身にまとう。わたしたちの最初の働きは、何とかして魂を曇らせようと意図されたすべてのものから自らを解き放すことである。

もし、聖書が生活の規則とされていないならば、わたしたちの先天的、後天的習慣と思考は、魂をわなにかけることになる。……魂には価値があり、神は金よりも、しかもオフルの黄金よりも尊いものとしてご覧になる。キリストはわたしたちに、ご自分が魂をどのように評価なさるかをお示しになった。このお方のへりくだり、このお方の苦しみ、このお方の死を見よ。このお方がご自分の楽しみ、ご自分の選択、ご自分の利便性を図られたならば、決して、天の王宮を去られることはなかったであろう。……

人間が自分の生涯を、自分の衝動にしたがい、自分のタラントをサタンの宮におき、自分自身の利益を選んできたとすれば、いったい彼に何が残るであろう。安っぽい世の賞賛だけである。そして、彼は何を失うであろう。祝福の永遠である。……

神は、わたしたちに、自分たちの力、タラント、脳と筋肉の活力を、単に自分を喜ばせ、満足させるための重要でない、軽薄な事柄に費やしてしまう代わりに、永遠を視野に入れて、自らを聖霊の導きの下に入れるようにと招いておられる。高尚で、純潔で、向上させる主題が、瞑想の対象となるべきである。わたしたちに個人的に、神はご自分の資産として次のように仰せになる。「あなたがたは知らないのか。……あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、神のものである自分のからだ、自分の霊とをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:19, 20 英語訳)。(原稿 21, 1898 年)

感化力という命の糸

「こうして、あなたは善良な人々の道に歩み、正しい人々の道を守ることができる。」(箴言 2:20)

一般的に、学校仲間には、二つの種類の人たちに分かれていく。正しいことをしようと求める人たちと他の人々を悪に入ろうとそそのかす人たちである。
.....

不注意で無謀な人たちと交わることによって、彼らが行うように物事を見るようになり、イエスに従う者となるということがどのような意味かという知覚力をまったく失ってしまうというのは、たやすいことである。この点において特に、あなたは自らを防備しなさい。その言葉と行動から神とのつながりを持っていないということが、あなたにわかる人々によって、感化を受けたり、迷わされたりしてはならない。「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」(マタイ 7:20)。
.....

サタンは、イエス・キリストにつながっていないすべての魂に自分自身の精神を吹き込もうとしている。そして、イエス・キリストとつながることを拒否する者たちは皆、キリストの敵とのつながりに入れられるのである。これらの魂には、他の魂を人間の感化力によって、サタンの支配下に入れてしまい、彼らの足が誤った道に導かれるまで束ねて引き寄せる感化力のひもがでている。……この危険はだれにとってもありふれたことである。あなたは自分自身の道を選び神の御旨をなおざりにしながら、自分自身の意志を持つようにと誘惑される。……

何ものにも、品性建設の働きからあなたを引き離させてはならない。かえって現世と永遠のために働きなさい。……矛盾のない生活を送り、あなたの品性を神の型に従って形成しなさい。もし、あなたが不注意に生き、祈って見張らないならば、あなたは確実に敵の餌食となり、罪へのいざないに屈してしまう。こうして、あなたは、礎石の上に最後の大きいなる日に燃えつくされてしまう木、草、または、わらをもって建てるのである。(手紙 71, 1893 年)

すべての心は感動を受けるか、あるいはイエス・キリストに引かれる。あなたが聖書を学ぶ生徒となるならば、神の霊は、神の事柄を取り上げてそれらを魂に印象づけてくださる。神を自らの力とする人の魂からのばされる黄金のひもは、感化力というひもを通して、他の魂を結び付けて、キリストへと引き寄せる。これが、礎石の上に貴重な材料をおく者たちによってなされなければならない働きである。なぜなら、彼らはイエス・キリストと協力するからである。(同上)

6月14日

徳の高い感化力の網

「わたしは、すべてあなたを恐れる者、またあなたのさとしを守る者の仲間です。」
(詩篇 119:63)

若い人たちは、仲間との交わりを切望する。そして、彼らの感情や愛情が自分の交わる人たちにどれほど結びついているかに比例して、これらの友人たちが彼らにとって祝福となるか、あるいはのろいとなるかいずれかの力を及ぼすのである。であるから、両親たちは気をつけなさい。彼らをあらゆる交わりの感化力から守りなさい。「知恵ある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害をうける」(箴言 13:20)。若者は、仲間をもち、また彼らの感化力を感じるのである。……

蠟が印のかたちをとどめる以上に、親交やつながりによってもかもしだされる印象は思いにはつきりと残る。感化力は、往々にして静かで気づかれないが、それにもかかわらずそれは強く、印象深いものである。もし、賢く善良な男女を仲間として選ぶならば、あなたは自分を思想、観念において健全となり、原則において正しい者となるための道に自らの身をおくのである。そして、そのような親しさは品性建設において最高の価値を持つ。あなたの周囲に徳のある感化力の網が張られ、悪い者はその魅惑的な狡猾さをもってそれを破ることができない。……

しかし、若者が、悪い原則と習慣を持つ男女の仲間となり、その感化力を選ぶならば、……彼らは汚染される。静かでひそかな感化力が彼らの心情をその生活に織り込み、彼らの存在そのものの一部をなすようになる。そして彼らは断崖絶壁の縁を歩きながら、何の危険も感じないのである。彼らはなめらかに語られた言葉や、欺きで甘くされた言葉を愛することを覚え、落ち着きがなく、不安定で、だれかのお世辞によって最高に持ち上げられない限り不機嫌なのである。……不信心な者の勧告に従って歩むことは、罪人の立場に立ち、あざける者の座に座る第一歩である。(手紙 26d, 1887年)

若者にとって唯一安全な道は、純潔で聖なる人々と交わり、そうすることによって生来の悪への傾向を抑制することである。自分たちの仲間として、そのように主を畏れる者を選ぶことによって、彼らは、神の御言葉を信じなかったり、疑いや背信をいだいたりするようなことはめったにない。真に矛盾のない模範の力は善に対して非常に大きい。(同上)

クリスチャン品性の金

「令名は大いなる富にまさり、恩恵は銀や金よりも良い。」(箴言 22:1)

人は名声を求めるかもしれない。彼らは、偉大な名を持ちたいと切望するかもしれない。ある者は、世の基準によって自分たちを偉大な者とするために、家や土地やたくさんの金銭を所有することを自分たちの野心の最高峰とする。彼らは、貧しい者たちを優越感をもって見下すことのできる地位に到達したいと願う。そのような者たちはすべて、砂の上に建てているのであり、彼らの家は、突然にくずれる。地位の優越さは、真の偉大さではない。それは、魂の価値を増幅させるものではなく、それ自体には本当の価値はない。獲得する価値のある唯一のものは、天の目から見ての魂の偉大さである。あなたの働きの、真のそして高められた性質を、あなたは決して知ることはないであろう。あなたの存在価値は、それを受け入れる者すべてを救うために与えられた命の価値によってのみ量り得るのである。

すべての人は、キリストがなさった働きをし、世をキリストの義で満たし、いと高き者からの使命を担って、キリストの共労者となる時に、何がしか彼自身の価値の評価を得る。……弟子たちに与えられた任務は、キリストにつながる者たちすべてに与えられている。彼らは、キリストなくして滅びつつある魂が救われるのを見る喜びのために、何らかの、また、あらゆる犠牲を払わなければならない。……

人間に授けることのできる最高の栄誉は、老若、貧富を問わず、しいたげられた者を引き上げ、弱い者を助けることを許されることである。世は、苦しんでいる人々で満ちている。行って、貧しい者に福音を宣べ伝えなさい。病人だ者を癒しなさい。これは、福音のメッセージと結びつけられるべき働きである。「貧しい人々は福音を聞かされている」(マタイ 11:5)。神の共労者は、自分たちが世に占めている空間をイエスの愛で満たすべきである。……心にあるキリストの愛は、行動のうちに表現される。もし、キリストのための愛がにぶくなるなら、キリストがそのために死なれた人々への愛は、衰えていくのである。……

真の富とは、本物の信仰と本物の愛である。これらは、キリストにあつて品性を完全なものとする。もし、もっと信仰が、単純にイエスに信頼する信仰があるなら、愛、純潔な愛があるであろう。それは、クリスチャン品性の金である。(原稿 61, 1898 年)

6月16日

話す能力という賜物

「あなたの舌をおさえて悪を言わせず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わずな。」(詩篇 34:13)

話す能力は、神からの偉大な賜物の一つである。それは、心の考えを伝達する手段である。わたしたちが神に祈り、神に讃美を捧げるのは舌によってである。わたしたちは舌をもって、説得し、納得させる。わたしたちは舌をもって慰め、祝福し、打たれ傷ついた魂の痛みを和らげる。わたしたちは、舌をもって、神の恵みの驚くべきことを知らせることができる。またわたしたちは舌をもってひねくれた事柄を語り、毒蛇のように刺す言葉を語ることもできる。

舌は小さな器官であるが、しかしそれがかたどる言葉には大きな力がある。主は、「舌を制する人は、ひとりもない」と仰せになる(ヤコブ 3:8)。それは、国を国に対立させて、戦争と流血を引き起こしてきた。言葉は、消すことが困難な火を灯してきたのである。……

サタンは、思いにクリスチャンが決して口にしてはいけない考えを入れる。あざけるような応答、苦々しく感情的な言葉、残酷で疑い深い非難などは、サタンからのものである。ただ語る者にも聞く者にも害を及ぼすばかりの言葉が何と多く語られていることであろう！激しい言葉は心を打ち、最悪の感情を目覚めさせる。自分たちの舌をもって悪をなす者は、……聖霊を悲しませる。なぜなら、彼らは、神のご目的に逆らって働いているからである。……

語る能力というタラントをよく守りなさい。なぜなら、それは善に対すると同様に、悪に対しても強力な力だからである。あなたは、自分がなにを語るか気をつけすぎることではない。なぜなら、あなたの語る言葉は何が心を支配している力であるかを示すからである。もし、キリストがそこを治めておられるのであれば、あなたの言葉は美しさ、純潔さ、そしてこのお方の御旨に従ってかたち作られ、形成された品性の香りをあらわす。しかし、もしあなたがあらゆる善の敵の導きの下にいるならば、あなたの言葉は彼の心情の反響なのである。……

キリストを通してのみ、わたしたちは、性急なキリストに似ていない言葉を語るうとする欲望に対して勝利を獲得することができる。このお方の強さのうちに、わたしたちがサタンのほめかしに言葉を口にするのを拒むとき、苦々しい植物はわたしたちの心のうちに枯れて、死滅してしまう。聖霊は、舌を命から命にいたらせる香りとすることができる。(ビュー・アンド・ヘルド 1910年5月12日)

神は、わたしたちが互いに助けとなることを望んでおられる。このお方はわたしたちが、希望と勇気の言葉を語るように望んでおられる。(世界総会冊子 1901年4月23日)

舌を教育する

「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。」(エペソ 4:29)

使徒は、語る能力の賜物を悪用する傾向を理解して、その用い方に関して指示を与えている。「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉」を出しなさい、と彼は言っている。ここで「悪い」言葉という意味は、聖なる原則や汚されていない宗教に対して有害な印象を残したりするすべての言葉、またキリストの姿に影をなげるような言葉、また思いから真の同情や愛を消してしまうようなすべての言葉である。そこには、不純なほのめかし、すなわちすぐに抵抗しなければ、大きな罪にいたるものも含まれている。すべての者に、悪い言葉に対して道をふさぐ義務が負わされている。

キリストの栄光がこのお方の子らのうちに現れるようにというのが、神のご目的である。ご自分のすべての教えにおいて、キリストは純潔で、混じりけのない原則をお示しになった。このお方は罪を犯されなかったし、このお方の口には偽りがなかった。このお方の唇からはたえず、聖なる高尚な真理があふれていた。このお方は、かつて人が語ったことのないような様子で、心に触れる哀感をもって語られた。……真理がこのお方の唇で薄れることはなかった。恐れることなく、このお方は、祭司や役人たち、パリサイ人やサドカイ人の偽善を暴かれた。……

語る能力の賜物の用い方に伴う大きな責任は、神の御言葉においてはっきりと示されている。「あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」とキリストは宣言なさる(マタイ 12:37)。そして、詩篇記者は次のように尋ねている。「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者、その舌をもってそしらず、その友に悪をなさず、隣りに対するそしりを取りあげず」(詩篇 15:1-3)。(ビュー・アofd・ハワード 1910年5月12日)

祈る気持ちを培い、正しい言葉を語るように舌を教育しなさい。それは失望の代わりに祝福となる。……神のいつしみ深きこと、あわれみ、そして愛について語りなさい。すべて不信な言葉や安っぽい、また俗っぽいものを捨てなさい。言葉が、責められるところのない健全な言葉となるようにしなさい。そうすれば神の平安がまちがいなく魂に訪れる。(原稿 151, 1898年)

6月18日

復讐してはならない

「悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。」(ペテロ第一 3:9)

好ましくない非難の言葉があなたを復讐に導いたり、あるいはあなたを意気消沈させるようなことを許して、敵を喜ばせることはしないと決心なさい。敵の努力をあなたに関する限り、失敗に終わらせなさい。そうすれば、主は、あなたに近づいてくださり、あなたにとっても深く満ち満ちた愛と平安と喜びを豊かに与えてくださり、あなたは自分の信仰の試練のただ中であっても、約束の言葉の真理に対して勝利の証を担うことができる。あなたは、神のご臨在を感じるであろう。あなたの理解力の目は啓発され、あなたが時折おぼろげにしか見えなかった真理が、そのときはっきりと見えるようになる。あなたは、救い主への深い感謝をもって十字架の物語を語るようになる。なぜなら、この愛があなたの心を溶かしたからである。あなたは、日常生活において、栄光の望みであられるキリストがうちに形成されているという証をどこでも担うことができる。

たえず、イエスをながめなさい。あなたのすべての問題をこのお方の許へ携えてきなさい。このお方は、決してあなたを誤解なさることがない。このお方は、ご自分の民の避け所であられる。このお方の保護の影の下で、彼らは損なわれることなく過ごすことができる。このお方を信じ、このお方に信頼しなさい。このお方は、決してあなたをあきらめて強奪者に引き渡したりはなさらない。(ビュー・アンド・ワルド 1911年1月5日)

あなたの魂を囲む雰囲気心地よく、芳しいものとしなさい。もし、あなたが人間の利己的な性質に対して闘うのであれば、あなたは悪への先天的、後天的傾向を克服する働きにおいて着実に前進する。根気と長い忍耐と辛抱によってあなたは多くを成し遂げる。あなたは、他人の愚かな言葉によっては辱められ得ないが、あなたが愚かに語るとき、自らを辱め、あなたが獲得できたはずの勝利を失うのだということを覚えておきなさい。……

天の三大勢力、すなわち御父、御子、聖霊があなたの力となってくくださる場所に身をおいておきなさい。これらの力は、余すことなく神に自らを捧げる者と共に働いてくださる。天の力は、神を信じる者たちの思うがままである。神を自らの頼みとする者は、難攻不落の城壁によって防御されている。(手紙1, 1904年)

言葉にある香り

「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである。」(マタイ 12:36, 37)

預言者イザヤが主の栄光を見たとき、彼は驚き、自分自身の弱さと無価値さを感じて圧倒され、叫んだ。「わざわざなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」(イザヤ 6:5)。……神のむすこ娘だと主張するすべての者は、天のみ光のうちに自分自身を吟味しなさい。自分を「足りない」者とする汚れた唇を考えさせなさい。それらは伝達の媒介である。……そうであれば、神を辱め、あなたの周りにいる人々を落胆させる言葉を心の宝庫から持ち出すためにそれらを用いることをせず、かえってこの目的のために唇を造ってくださった神への讃美と栄光のために用いさせなさい。……イエスの愛が熟考の主題となると、人の唇から出る言葉は、神と小羊への讃美と感謝に満ちる。

冗談やしやれで何と多くの軽々しく愚かな言葉が語られていることであろう!キリストに従う者たちが「審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」という真理の言葉を悟るとき、こういうことはなくなる。……

イザヤに与えられたまぼろしは、終わりの日の神の民の状態を表している。……信仰によって、彼らが至聖所をながめ、天の聖所でのキリストの働きを見るとき、彼らは自分たちが汚れた唇の民—その唇がしばしば空しいことを語るために開き、そのタラントが聖化されておらず、神の栄光のために用いられていない民であることを理解する。……もし、彼らが自分たちの魂を神のみ前にへりくだらせるなら、彼らのためには望みがある。約束の虹は御座の上にある。そして、イザヤのためになされた働きは、彼らのうちになされるのである。(ビュー・アッド・ハヴル 1896年12月22日)

あなたの言葉において香るようにしなさい。あなたは命から命にいたる香りになるか、または死から死へいたる香りになるかのどちらかであることを覚えていなさい。香る花々ようにならうではないか。キリストの愛があなたの生活に行き渡るようにしなさい。あなたの言葉が銀の彫り物に金のりんごがはめられたようなものとなるようにしなさい。(世界総会冊子 1901年4月4日)

6月20日

互いに忠実である

「すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。」(エペソ 4:31)

自分たちが思うべき以上に、自らを高く評価する者たちがいる。彼らは、兄弟たちを悪くいう。というのは、何かがなされた後に振り返ってみては、自分だったらどんなに違った方法でやってみせたかを語るなのである。しかし、彼らの計画は、彼らが兄弟たちの立場にいたならみせたであろう計画より少しも良くないのである。……

あなたはさばきの座から降りていなさい。すべてのさばきは、神の御子に委ねられている。……サタンは人をこの点において罪を犯させようと熱心に働いている。その舌をもって非難の言葉を自由に語る者たち、また仲たがいの種をまくことによって思いにおかれた表現や意見を引き出す巧妙な質問者たちが彼の使命者である。彼らは、自分たちがずる賢く禁じられた地へと導いた者たちの考案したもとのとして、他人から引き出した言葉を何度も繰り返すかもしれない。これらの人々にはいつも、なにか批判し、責めることが見えるようである。……彼らの舌はすべて悪を誇張する準備ができています。小さな火は何と大きな問題に火を灯すことであろう！(日付不詳EIN・G・初稿原稿)

あなたの舌と声があなたの兄弟たちの欠点を暴露し、誇張するために用いられることが決してないようにしなさい。なぜなら、天の記録はキリストの利害を、このお方がご自分の血で買われた者たちのそれと同一視しているからである。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」とこのお方は言われる(マタイ 25:40)。わたしたちは、互いに忠実であること、自分たちの兄弟を守るためには鋼のように真実であることを学ばなければならない。あなた自身の欠点を見なさい。あなたは、十人のあなたの兄弟たちの欠点を見い出すよりも、あなた自身の欠点の一つを見い出すほうがよい。キリストは、これらのご自分の兄弟たちのために、ご自分が御父と一つであられるように、彼らすべてが一つとなれるようにと祈られたことを覚えていなさい。キリストの基準に達するまで、すなわちこのお方が御父と一つであられたように、あなたが自分の兄弟たちと調和していられるように、あなたの能力の極限まで求めなさい。……

「兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい」(ペテロ第一 3:8)。真の道徳的価値は、邪推や悪口、他人の欠点をあげつらうことによって、自分の居場所を求めたりはしない。あらゆるねたみ、あらゆる嫉妬、あらゆる悪口、そしてあらゆる不信は、神の子らから捨て去られねばならない。(同上 144)

誠実さの力

「真実を言うくちびるは、いつまでも保つ、偽りを言う舌は、ただ、まばたきの間だけである。」(箴言 12:19)

真理と、とても緊密に一つとなっているために、何物も殉教や死でさえ、真理から引き離すことのできない人々がいる。だれか他の人を傷つけることを恐れて、沈黙によって真理を避ける者たちは、偽りを証するのである。真理をつかんだり離したりしてもあそび、だれか他の人の意見に合わせるために偽るということは、信仰の難破を意味する。偽証を嫌悪しようではないか。言葉によっても行いによっても、あるいは沈黙によっても、決して偽りを証することがないようにしよう。

……

不誠実なことを語る者はみな、……初めから偽り者であった者に仕えているのである。不誠実に対して守りを固くしよう。不誠実はそれを働く者にますます大きくなる。わたしは皆に言う、真理をあなたの帯としなさい。あなたの信仰に対して真実でありなさい。あらゆる言い逃れと誇大表現を捨てなさい。決して偽りの言葉を述べてはならない。あなた自身の魂と、他人の魂のために、あなたの言葉において真実でありなさい。偽りを語ったり、行ってはならない。真理だけが、繰り返されるべきである。真理に固く付き従うことが、クリスチャン品性の形成に重要不可欠である。「すなわち、立つて真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ」(エペソ 6:14)。

真実でないことを語る者は、自分の魂を安売りに出しているのである。彼の偽りは危急のときに役立つように見えるかもしれない。彼は、正直な取引では獲得できないものを不正直によって獲得し、商売で発展を見せるかもしれない。しかし、ついに彼は、だれも信用できないところに到達する。自分自身が偽る者なので、他人の言葉に確信がもてないのである。(原稿 82, 1900 年)

真理以外に悪に対する安全防備はまったく何一つない。心に真理が宿っていない者は、だれ一人として、正しいことのために固く立つことができない。わたしたちを不動の者とし、そう保つ唯一の力がある。それは、キリストの恵みを通してわたしたちに与えてくださる神の力である。(手紙 20, 1903 年)

キリストとつながることによって、人間の性質は真実で純潔なものとなる。キリストが力を満たしてくださる。そして、人間は善のための力となるのである。……誠実と高潔さは神の特質であり、これらの資質を持つ者は、打ち負かすことのできない力を持つのである。(原稿 139, 1898 年)

6月22日

恵み深い言葉

「いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりひとりに対してどう答えるべきかわかるであろう。」(コロサイ 4:6)

礼儀とは御霊の実の一つである。それは天の特質である。天使たちは、決して激情に走ったり、ねたんだり、利己的になつたりはしない。彼らの唇から、辛らつて不親切な言葉がもれたりやしない。もし、わたしたちが天使たちと交わりたいのであれば、わたしたちもまた精錬されて、礼儀正しくなければならない。

神の真理は、受ける者を高尚にし、その嗜好を精錬し、その判断力を聖化するようによく意図されている。だれ一人として、キリストの霊を持たずにクリスチャンとなることはできない。そして、もしその人がキリストの霊をもっているならば、それは、精錬された礼儀正しいふるまいに明らかにされるのである。彼の品性は聖なるものとなり、彼の作法は上品で、彼の言葉には偽りが無い。彼は、いらだたず、寛容であり、情け深く、すべてを望み、すべてを耐える愛をいただくのである。……

キリストに従う者であると公言しながら、言葉と振る舞いが粗野で、不親切で、礼儀を知らない者たちはイエスから学んでいないのである。……ある者の振る舞いは、クリスチャンはあまりにも親切と礼儀に欠いているので、彼らの善が悪く言われるのである。彼らの誠実さは疑う余地がないかもしれないし、彼らの正直さは問題ないかもしれない。しかし、誠実と正直とは、親切と礼儀の欠落を贖うことはできない。クリスチャンは真実であると同様に同情深く、高潔で正直であると同様にあわれみ深く礼儀正しくなければならない。

真理と正義の混ぜ合わされた真の礼儀は、生涯を有益なものとするだけでなく、美しく、香りを放つものとする。親切な言葉、気持ちの良いまなざし、快活な表情は、クリスチャンの周りに魅力を投げかけ、その感化力をほとんど抗いがたいものとする。自己を忘れて、彼が他人に絶えず与えている光と平安と幸せのうちに、彼は、真の喜びを見い出すのである。

自己を忘れて、他人を元気づけ、彼らの重荷をやさしい親切さと無私の愛の行いによって軽くする機会を見張ろうではないか。不親切な言葉は語らないようにしよう。その利己的な他人の幸せに対する無関心を、愛する同情に代えよう。これらの思いやり深い礼儀は、家庭で始められ、それが家庭の輪を越えて広がっていき、生涯の幸せの絶頂を築くところまで及ぶ。そして、これらをおおざりにすることは、少なからず生涯の惨めさとなるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年7月16日)

親切で礼儀正しい言葉

「主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。」(イザヤ 50:4)

この地上でのご生涯におけるキリストの姿が、すべてのクリスチャンのなるべき姿である。このお方は、そのしみのない純潔においてばかりでなく、その忍耐、優しさ、そして、ふるまいの快活さにおいても、わたしたちの模範であられる。このお方は、真理と義務にかかわることにおいては岩のように堅固であられたが、例外なくいつも、親切で礼儀正しいお方であった。このお方の生涯は、真の礼儀の完全な実例であった。……このお方のご臨在は、家庭により純潔な雰囲気をもたらし、そしてこのお方のご生涯は、社会の諸要素のただ中で働くパン種のようにであった。悪意なく、また汚されることなく、このお方は、思いやりがなく、無礼で、礼儀を知らない人々のただ中を、不正な取税人たち、不義なサマリア人たち、異教の兵士たち、乱暴な百姓たち、そして雑多な群集のただ中を歩まれた。

このお方は、弱った人が重い重荷を担わされているのをご覧になっては、ここで同情の一言を、あちらで一言を語られた。このお方は、彼らの重荷を共にされ、彼らにご自分が自然から学ばれた、神の愛、親切、またいつくしみの教訓を繰り返された。このお方は、最も粗野で見込みのない者に彼らも責められるところのない悪意のない者となり、彼らを神の子として表すような品性を獲得することができるという確証を彼らに示して、希望を吹き込もうと努力された。……イエスは、取税人の食卓に貴賓として座られ、このお方の同情と社交的な親切とによって、このお方は、人類の尊厳を認めておられることを示された。そして、人は、このお方の信頼に応える者になりたいと切望した。彼らの渴いた魂に、祝福された命を与える力を伴って、このお方の言葉が降り注がれた。新しい衝動が目覚め、新しい生涯の可能性がこれらの社会の脱落者たちに開かれた。

イエスの宗教は、気質が固く荒いところをどこでも和らげ、作法が無骨で鋭いところをどこでもなめらかにされた。言葉を親切にし、物腰を魅力的なものとするのは、この宗教である。わたしたちはキリストから、いかにして高い意味での純潔と高潔さに気質の快活さを結びつけるかを学ぼうではないか。親切で礼儀正しいクリスチャンは、福音のために示すことのできる最も力強い論拠である。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年7月16日)

6月24日

鋭い言葉も性急な言葉も 語ってはならない

「だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによってお育て、救いに入るようになるためである。」(ペテロ第一 2:1, 2)

わたしたちはこの命令を研究すべきである。「キリストの満ちみちた徳の高さにまで」成長することはわたしたちの特権である(エペソ 4:13)。わたしたちは語ることに思いやりなく、不注意になって、互いに不親切な言葉によって傷つけてはならない。……

主の働きに関係しているすべての人は、自分たちが一端を担っている働きを正しく評価する必要がある。神の施設での働きは、摩擦や性急な言葉、命令的な言葉なく進められなければならない。働き人たちは、思想と言葉、行いにおいて純潔で、きよく、そして、聖なるものでなければならない。彼らは、自分たちが新たに生まれたということを証するキリストの証人でなければならない。(手紙 179, 1902年)

鋭く話したり、またいらだってしかりたりしてはならない。なぜなら、神の御使たちがすべての部屋を歩き回っているからである。キリストはすべての忠実な働き人を賞賛することを望まれるし、そうなさるのである。すべての善行は天の書に記録される。小さな失敗をするかもしれないが、非難の言葉が復讐の感情を呼び覚まし、そして神が辱められるのである。……思いやりに欠け、あるいは無分別に語られる言葉は何でも、その場で取り消されるべきである。……わたしたちは、一致して働いていると公言しているクリスチャンとして、罪深い言葉やわざを悔い改めなければ責めを受けることになる罪人のように、行動してはならないということを覚えているべきである。……

「目をさまして、死にかけている残りの者たちを力づけなさい」(黙示録 3:2)。これがわたしたちの働きである。霊的に死のうとしているものが大勢いる。そして、主は、彼らを力づけるようにとわたしたちを招いておられる。神の民は、義務に対して堅固でなければならない。彼らは、互いにクリスチャンの親交のきずなで結ばれて、しばしば互いに、自分たちに委ねられた尊い真理について語ることによって、信仰において力づけられなければならない。決していさかいをしたり、責めたりしてはならない。彼らは、神の律法に対する服従の重要性の上に一貫していなければならない。(手紙 179, 1902年)

この生涯において、わたしたちがついに、喜びをもって天国の聖徒たちの住まいに入ることができるように、品性の準備をすることより、大きな重要性のあるものは何もない。わたしたちは、なぜこの地上で聖徒になるというわたしたちの特権を活用しないのであろうか。(同上)

キリストに成長する

「そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を
目ざして進むのではないか。今さら、死んだ行いの悔改めと神への信仰…をくりか
えし学ぶことをやめようではないか。」(ヘブル 6:1, 2)

永遠の命にいたる道の入り口のところに、神は、信仰を置かれる。そして、こ
のお方は道中ずっと、自発的な従順の光と平安と喜びを並べられる。この道の
旅人は、いつも、自分の前にキリストにある高い召しの目標を目の前においている。
常に賞与を視野に入れている。彼にとって、神のご命令は、聖霊にあつて義と喜
びと平和である。はじめは十字架だと思われた物事が、経験によって冠であるこ
とがわかるようになる。

救い主は、「わたしに学びなさい」とお命じになる。しかり、どのようにして、
キリストの命、すなわち純潔で聖なる、いかなる罪のしみもない命を生きるかを
このお方に学びなさい。……停滞ではなく、進展が天の法則である。進展は、
すべての思いと体の機能の法則である。性質の事柄は、この法則に従う。畑では、
まず初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。霊的な命におい
ても、肉体的な命と同様に成長がなくてはならない。段階をおって、わたしたち
は前進し、絶えず受けては与えながら、絶えずより完全なキリストの知識を得な
がら、毎日にキリストの満ち満ちた徳の高さにますます近づいていくのである。

クリスチャンは、はじめはキリストにあつて幼子である。それから、子供にな
る。たえず、彼は、自分に与えられた機会と特権に比例して前進する。常に、彼
は、自分が自分自身のものではなく、代価を持って買われたものであることそして、
彼は自分に委ねられたタラントを可能な限り最善に用いなければならないことを
覚えていなければならない。彼の霊的な理解力の幼児期においてさえ、クリスチ
ャンは自分の最善を尽くし、より高く、聖なる生涯に向かって着実に前進しなけ
ればならない。彼は、自分が神の共労者であることを自覚しなければならない。
……

彼は決して自己満足してはならない。かえって自分の主であるわたしの主キリス
ト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思うのである。
彼は、救い主の交わりのうちに歩み、働かなければならない。彼がこうするとき、
彼の信仰は増し加わる。たえずイエスをながめて、彼は、栄光から栄光へと同じ
姿に変えられていく。(ビュー・アンド・ヘラルド 1907年5月9日)

6月26日

靈的な小人となってはならない

「そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アメン。」(ペテロ第二 3:18)

本物のクリスチャン経験は日毎に発展し、その持ち主に新しい力と熱心さをもたらし、たえず靈的な命の成長へと導く。しかし、クリスチャンの世界には、単に宗教的小人にすぎない宗教の教授たちがあふれている。多くの者は、クリスチャンの信仰の基礎を学ぶや否や卒業してきたかのようなのである。彼らは恵みと真理の知識に成長しない。彼らは、自分たちの財産をもってしても、あるいは感化力をもってしても神のみ働きを築くために何もしない。彼らは、ミツバチの巣箱にいる雄バチ(怠け者)である。これらの部類の人たちは、自分たちのいるところに長くどまっただけでいられない。彼らは、改心して前進するか、さもなければ退歩するのである。……

神のご要求に応えるために、あなたは、個人的な努力をしなければならない。そして、この働きにおいて、あなたはたえず成長するクリスチャンの経験という資源を必要としている。あなたの信仰は強く、あなたの献身は完全で、あなたの愛は純潔で誠実なものであり、あなたの熱意は燃えてうむことなく、あなたの勇氣は揺らぐことなく、あなたの忍耐は弱ることなく、あなたの希望は明るいものでなければならない。老若問わず、すべての人にこの問題に対する責任が負わされている。(レビュー・アンド・ハラルド 1884年1月8日)

終わりの時代の危険は、わたしたちの信仰を試す。……誘惑の力強い大波がすべての人に打ちつけるであろう。そして、彼らがとこしえの岩に固定されていない限り、彼らは、連れ去られてしまう。あなたは、安全に潮流にただよふことができると考えてはならない。もし、あなたがそうするならば、あなたは、確実に救いようのないサタンの考案物の餌食となってしまう。聖書を勤勉に探り、神の助けを求めて熱心に祈ることによって、誘惑に抵抗するために魂を備えなさい。主は、悔いなくおれた魂の心からの祈りを聞かれ、あなたのために敵に対して旗印を掲げてくださる。しかし、あなたは試されるであろう。あなたの信仰、あなたの愛、あなたの忍耐、あなたの忠実が試されるのである。……

わたしたちの義務、わたしたちの安全、わたしたちの幸福と有用性、そしてわたしたちの救いは、わたしたちが各々、キリストの恵みを手に入れるように最大の勤勉さを用い、わたしたちが靈的な事柄を識別し、サタンの考案物について無知でいることがないようにキリストに緊密につながることを要求している。……

「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」(同上)

「全き人となり」

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:13)

わたしたちが服従の道を一步一步進むとき、主をせつに主を知ることを求める者は、主があしたの光のように必ず現れでるという約束がいかに真実なものであるかを知るようになる。よりはっきりとした光が世の光であられるお方に従うすべての者の上に輝くばかりとなっている。神のみ言葉に従うという決心に満たされて、自分の身にキリストのくびぎを負う者はすべて、健全で均衡の取れた経験を持つのである。彼は、自分の命がキリストと共に神のうちに隠れる結果、自分にもたらされた祝福を楽しむ。

実業生活では、彼は、キリストの山上の垂訓で述べられた原則を実行する。彼は欺きの量りの袋を捨てて、取引における詐欺の手口を嫌悪する。……彼は自分が天の会社の一員であり、神から自分に与えられたタラントをめぐる取引をすることが自分の義務であるという意識をたえず持っている。彼は、自分が神の家族の養子とされたことを、また自分がキリストがこの地上におられたときにふるまわれたようにすべての人に対してふるまわなければならないことを悟る。

真のクリスチャンの働きは、何と勤勉で変わらない働きであろう。彼はたえずキリストのくびぎを負っている。……彼は本物のつつましさを持っており、自分の資質や偉業を語らない。自己賞賛は、彼の経験にあずからない。真のクリスチャン品性は何から成っているかについて、学ぶべきことが多くある。それは、確かに自己慢心ではない。……神の栄光と大能がたえずわたしたちの魂を聖なる畏敬で満たしわたしたちをこのお方の前にちりのうちにへりくだらせるべきである。このお方のへりくだり、このお方の広く、深い同情、このお方の優しさと愛はわたしたちの確信を強め、くびぎへ向かいがちである恐れを取り除くためにわたしたちに与えられる。主は、わたしたちが変わらず、むらのない均整のとれたクリスチャン生涯において自分たちにあるすべてを、ご自分に捧げるよう望んでおられる。……

宗教的な小人になるという考えに耐えるようなことはしないのである。……わたしたちはたえず、キリスト・イエスにある満ち満ちた男女へとこのお方にあって完成されるまで成長し続けていなければならない。キリストは心から、お入りください、というすべての魂のもとに来て、住んでくださる。このお方はご自分に従いたいという願いを持つすべての者を受容される。(レビュー・アンド・ワールド 1900年10月23日)

6月28日

あなたの領域において完全に

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

わたしたちの品性建設が神に喜ばれるものとなるためにわたしたちは、たえず靈性において前進しなければならない。わたしたちは、わたしたちの贖い主を信じる信仰と確信を弱めるものは何であっても、価値のないものとしてみなさなければならない。光がわたしたちの魂のうちに差し込んで輝けば輝くほど、その光を他人に反射するというわたしたちへの要求は大きくなるのである。神は、あなたが自分の光を世に輝かせるようにと望んでおられる。このお方はわたしたちが各々、ご自分のご品性を反映するとき栄光を受けられる。……

キリストの愛に憩い、贖い主であり命の与え主であられるお方があなたのためにあなたの魂の救いを成し遂げてくださることを信頼するとき、あなたは自分がこのお方に近く、もっと近くに行くにつれて、見えないお方を見ているようにして忍びとおすという意味を知るようになる。神はわたしたちがご自分の愛のうちに満足してとどまっていることを望んでおられる。キリストが与えてくださる安らぎは、金や銀や宝石に勝って無限の価値がある賜物である。……あなたの知覚機能は、もし、あなたが全存在、体、魂、霊を聖なる働きを成し遂げるために献身するならば、力と健全さのうちに増し加わる。キリストの恵みのうちに、またそれを通して、あなたの前におかれた高い標準に達成するためにあらゆる努力をしなさい。あなたは、神がご自分の領域において完全であられるように、自分の領域において完全になることができる。キリストは「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と仰せにならなかったであろうか。

あなたは、自分を単に主イエス・キリストの恵みを受動的に受けるだけの者であると考えてはならない。神は、尊いタラントをあなたに委ねてこられた。そして、このお方はそれらのタラントを活用するように要求しておられる。貸し与えられた資本の利子は当然このお方のものである。……あなたの意志をこのお方の意志に屈服させるとき、あなたは言葉においても、靈的な理解力においても向上する。……

あなたは、注意深く思いの力を守らなければならない。あなたの思想は、聖霊の支配の下におかれていなければならない。……ついに、不死の命を受けるにふさわしいとの宣言をなされるまで、たえず向上しつつ完全に向かって前進するのが、あなたの働きである。そして、そのときでさえ、進展の働きは止まることなく、永遠にわたって継続されるのである。(手紙 123, 1904 年)

キリストのかたちをあらわす

「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼である。」(イザヤ 32:17)

キリストは、もしこのお方の民がこのお方に來なさいとの招きに注意を払うならば、彼らに対してこれらの言葉が表すすべてのものとなってくださる。このお方は彼らにとって、命、力、強さ、効力、知恵、そして聖潔であられる。神は、わたしたちにキリストの命を生き、このお方の命を世に表すようにと招いておられる。(ビュー・アンド・ワールド 1904年11月24日)

わたしたちは、確かにわたしたちは、自分たちの神なる主のかたちを表すことができる。可能なのである。わたしたちは、靈的命の科学を知ることができる。わたしたちは自分たちの造り主に誉れを帰すことができる。しかし、わたしたちはそうするであろうか。ああ、わたしたちには、キリストがこの地上で生きられた生涯において、何という輝かしい模範があることであろう!彼はわたしたちに、神性と協力するとき、わたしたちは何を成し遂げることができるかを示してこられた。わたしたちは、このお方が「わたしにつながっていなさい」と仰せになったときに意味しておられる一致を求めべきである(ヨハネ 15:4)。この一致は、他のいかなる一致より深く、より強く、より真実で、あらゆる善を産出する。このように救い主につながっている者は、このお方のご意志に支配され、このお方の愛によって動かされて、苦しんでいる者と共に苦しみ、喜ぶ者と共に喜び、弱さと悲しみと苦難のうちにあるすべての者に対して深い同情を感じるのである。(同上)

わたしが行くところへはどこでも、わたしは人々にキリストを掲げ続けるようにと強く説得する。このお方はいつも昨日も今日も永遠に同じで、いつもわたしたちに善をなすことを求め、いつもわたしたちを励まし、案内して、わたしたちが一步一步前進するよう導いてくださる。このお方が今日何であられるか、すなわちわたしたちの弱さを思い見ることのできる忠実な大祭司であるお方は、明日も永遠にその通りのお方である。このお方はいつもわたしたちの導き手、わたしたちの教師、わたしたちの勧告者、わたしたちの友であり、わたしたちの信仰に應えて、わたしたちにご自分の祝福を与えてくださる。このお方は、わたしたちにご自分と共に住むようにと招いてくださる。わたしたちがそうするとき、わたしたちはこのお方と共に住むとき、すべての摩擦、すべての悪い気質、すべてのいらだちは止む。……

わたしは、わたしが主にわたしの助け手となってくださるよう求めるとき、このお方が断られないことを知っている。なぜなら、このお方の御旨を行い、このお方の御名に栄光を帰すことがわたしの唯一の願いであるからである。わたしは弱い、完全にこのお方により頼むことによって、わたしは力を得る。わたしの重荷を、担ってくださるお方に委ねるとき、わたしは慰めと力と希望を見出す。これが、すなわちこのお方の足許で永続的な休息を見出すことがわたしの願いである。わたしがこのお方の御手をしっかりと握り続けている間、このお方はわたしを安全に導いてくださる。生ける神は、わたしの魂の喜びとなり楽しみとなる。(同上 10月6日)

6月30日

キリストの永続的なご臨在

「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:20)

わたしたちは、もし、わたしたちが毎日に自分たちの意志を神に明け渡すならば、「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」という約束が成就するという励みをすべて持っている(ヨハネ 1:16)。わたしたちのためのすべてのキリストの恵みのあらわれは、わたしたちのものである。わたしたちは、このお方の恵みをわたしたちの生活、思想、言葉、そして行いにあらわさなければならない。……わたしたちはキリストのあわれみ、愛、そして力、すなわちこのお方がわたしたちに与えてくださった力を表さなければならない。……

キリストを通して受ける力がなければ、わたしたちには何の強さもない。しかし、キリストはすべての力を持っておられる。「イエスは彼らに近づいてきて言われた、『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を…教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』」。ここにわたしたちの力、わたしたちの慰めがある。わたしたち自身には何の強さもない。しかし、このお方は、あなたが自分の義務を行うのを助けるために、あなたを導き、慰め、聖化し、支えるために、あなたが他人の注意をキリストに集め、そして、彼らを闇から光へと向けさせて彼らの心に真理の希望と意味を理解したいという願いを起こさせるための言葉を語るとき成功するように、「いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになる。……考えてみると、人間が神のみ言葉を、慰めと励ましの単純な言葉で語るができるというのは、すばらしいことである。最もつましい器が真理の種をまくために神に用いられる。その種は芽を出して、実をみのらせる。なぜなら、その心に必要な助け、すなわち、「見よ、いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになったお方によって力を持つようになった親切な思い、親切な言葉がまかれたからである。(手紙 329a, 1905年)

わたしたちにとっても、キリストの永続的なご臨在の約束は与えられている。時間の経過は、このお方の別れの約束において何の変化ももたらさないからである。このお方は、弟子たちと一緒におられたのと同じくらい真実に、今日わたしたちと共におられる。そして、このお方は「世の終りまで」さえ、わたしたちと共におられるのである。……

このお方は、ご自分の忠実な者を見い出され、彼らを励まし、強めつつ、彼らと交わりを持たれる。そして、力にすぐれた神の御使たちは、真理を知らない人々に真理を語る、神の人間の働き人を助けるために、神より遣わされるのである。(教会への証 8巻 17)

研究 17

わたしたちが信仰の一致に到達するまで



キリストを告白する力

なまぬるい肉の人であったニコデモが、熱い霊なる人となることができるように、キリストは、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」と診断して下さいました。彼に必要だったのは、霊の新生、罪のきよめであり、知識と聖潔とを新たにされることでした。しかし、これはこの時に新しく与えられた真理ではありませんでした。なぜなら、イスラエルに与えられていた靈感の言葉は次のように教えられていたからです。

「われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。われわれはみな木の葉のように枯れ、われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る」(イザヤ 64:6)。

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」(詩篇 51:10)。

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる」(エゼキエル 36:26, 27)。

しかし、「ニコデモはこれらの聖句をくもった心で読んでいた。だが今彼はその意味をさとりはじめた。律法を外面的な生活にあてはめ、どんなに厳格に文字通りこれを守っても、だれも天の王国にはいる資格はないということを彼はさとり。人間の目からみれば、彼の生活は正しく尊敬すべきものであった。だがキリストの前に出ると、彼は、自分の心が清潔でなく、自分の生活が聖潔でないことを感じた」(各時代の希望上巻 205)。

このとき、ニコデモは御霊によって自分のなまぬるいラオデキヤ状態をさとり

ました。そして、同じ御霊が彼を十字架のキリストを自分の救い主として受け入れ、新しく生まれるところまで導いたのです。

では、どのように、ニコデモは御霊に心を開いたのでしょうか。それは、イエスの(み言葉の)許へ行くことによってでした。

「神の残りの民について、こう書かれている、『龍は、女に対して怒りを発し、女の(すえの)残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った』(黙示録 12:17)。いわゆる教会の父祖たちの権威の代わりに、天と地の主であられる永遠の父のみ言葉を受け入れるようにと、神はわれわれに命じられる」(各時代の希望中巻 155)。このように、昇天後、女のすえと共に残る者は、神はみ言葉のところへ行くようにと計画されています。

ニコデモが、御霊に導かれていたのは、イエスをずっと観察することによってでした。同様に、み言葉によってイエスを観察することにより、わたしたちも御霊に導かれるのです。「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二 3:18)。

ニコデモは、キリストの十字架後、小さい群れがエペソ教会になれるように、持てるものをすべて捧げました。

キリストを告白する力

聖霊に導かれてはじめて、イエスが神であり、主であることを告白できるようになります。

「そこで、あなたがたに言うておくが、神の霊によって語る者はだれも『イエスはのろわれよ』とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」(コリント第一 12:3)

「トマスはイエスに答えて言った、『わが主よ、わが神よ。』」(ヨハネ 20:28)。

「すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。」(ローマ 10:9)。

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」(使

徒行伝 1:8)。

御霊こそ、「イエスは主である」ことを告白させる力です。

「メッセージは、議論によるよりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。論拠はすでに示された。種はまかれた。そして今、それが生えて、実を結ぶのである。伝道者によって配布された文書は、その感化を及ぼした。しかし、感動を受けた人々の多くは、真理を十分に理解して、それに服従することを、妨げられていた。けれども、今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである」(各時代の大争闘下巻 383)。

「助け主は『真理の御霊』と呼ばれている。助け主の働きは真理を明らかにし、これを守ることである。助け主はまず真理のみたまとして心に住み、こうして助け主となられる。真理には慰めと平安があるが、虚偽には真の平安も慰めもない。サタンが人の心を支配する力を手に入れるのは偽りの説や言い伝えを通してである。サタンは人々を偽りの標準へ向けることによって、まちがった品性を形成する。聖霊は、聖書を通して心に語り、真理を心に印象づける。こうしてみたまは誤りをばくろし、それを魂から追い出される。キリストが選民をご自身に心服させられるのは、真理のみたまが神のみことばを通して働くことによってである」(各時代の希望下巻 156)。

御霊の語ってくださる言葉は、どこが違うのでしょうか。キリストがニコデモに語られたとき、御霊が働いてニコデモの心に瞑想課題が与えられました。それが、ヨハネ 3:14 です、「そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない」。

人の話した言葉は、耳→頭へ入りますが、

聖霊の話したみ言葉は、耳→頭→心へ至ります。

しかし、聖霊を拒む高慢な心は、天の炭壺からとりだした矢も刺し通すことができません。

「人間は、自分で、自分のあやまちをさとることはできない。『心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか』(エレミヤ書 17:9)。わたしたちは心に思ってもいないことなのに、

いかにも心が貧しいかのように表現してみることができる。また、心の貧しさを神に訴えながら、自分がどんなにけんそんで義に富んでいるかを誇ることができる。…

外見上どんなにりっぱに律法をまもってみても、それは単純な信仰と全的自己否定の代わりにはならない。しかし、人間は、自分で自分をむなしくすることはできない。ただキリストが(聖霊を通して)働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになろう。わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救いください。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることにはできません。これは、あなたのものです。どうぞぎよく保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。どうぞ、わたしを練り、形造り、清い聖なるふんい気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通って流れ出るようにしてください」(キリストの実物教訓 138, 139)。これが、真にキリストを告白することです。このとき、聖霊による一致を実現します。

「さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のぎずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目指して召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。そこで、こう言われている、『彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた』。さて『上った』と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではないか。降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである。そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ 4:1-13)。アーメン(完)

義人はキリストが来られるのを見て、叫びます。「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわれわれを救われる」(イザヤ 25:9)。

わたしたちはこのお方が来られる正確な時を知らないで、見張っているようにと命じられています。「主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである」(ルカ 12:37)。

主の来られるのを見張っている人たちは怠惰のうちに待つべきではありません。キリストの再臨への期待は罪への神の裁きを人に恐れさせます。それはこのお方の戒めを破った自分たちの罪に対する悔い改めへと彼らを目覚めさせることです。

主が来られるのを見張っている間、わたしたちは勤勉に働きます。このお方が戸のそばにおられることを知ることは、わたしたちを自分たちの同胞への救いの働きのためにもっと熱心に働くようにと導くべきです。ノアが洪水の前に人々に神さまからの警告を与えたように、すべて神さまのみ言葉を理解する者は今日、人々に警告を与えるべきです。

「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう」(マタイ 24:37-39)。

きゅうりのんにくレモン漬け

■材料

きゅうり	2本
んにく	3片
レモン汁	大さじ3
しょう油	大さじ3
昆布顆粒だし	小さじ1
粗糖	小さじ1

■作り方

1. しょう油、昆布顆粒だし、粗糖を鍋に入れて、煮溶かします。
2. きゅうりは、縦に四カ所皮をむき、しま模様にしてから、乱切りにします。
3. にんにくは包丁の腹でつぶします。
4. ジップロックなどの袋に、材料をすべて入れてまぜ、空気を抜いてしっかりと口を閉じてから、冷蔵庫に入れて一晩おきます。
5. 翌日、取り出して、器に盛り付けていただきます。

新鮮なきゅうりが出始める季節になりました。お試しください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第63話

さばきの日(1)

キリストの来られる日はこの世界の上にさばきが下る日です。

聖書は「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うためであり、」と宣言しています(ユダ 14, 15)。

「すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け」(マタイ 25:32)。

しかしその日の前に、神さまは何が来るかを人に警告してくださっています。このお方はいつも人に来るべきさばきの警告をお与えになってきました。警告を信じて神さまのみ言葉に従った人もいました。これらは不従順と不信心な者に下るさばきを免れされました。

この地上を洪水によって滅ぼされる前に、神はノアにお命じになりました。「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々

の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」(創世記 7:1)。ノアは従い救われました。ソドムが滅ぼされる前に、天使たちはメッセージをロトにもたらししました。「立てこの所から出なさい。主がこの町を滅ぼされます」(同 19:14)。ロトはこの警告に注意を払い救われました。

そのように今日においてもわたしたちはキリストの再臨とこの世界にのぞむ破滅について警告されています。そしてその警告に注意を払う者は救われるでしょう。



(43 ページに続く)